

■フランス・アンソミーズ(不服従のフランス)の台頭

クレマン・ゲテへのインタビュー

翻訳:ジョン・スミス

フランスは他の多くの欧州諸国と同様、旧来の労働者政党が歴史的な衰退を遂げた。しかしフランス・アンソミーズの台頭は、大衆動員に根差した活力ある左派の再生を確かなものにした。

インタビューア [テイコ](#)

エマニュエル・マクロン大統領を苦しめる数々の危機は、フランスの制度が深い混乱に陥っていることを示しています。多くの見方では、その恩恵を受けるのは、今日、高い支持率を獲得しているマリヌ・ル・ペンの極右政党「国民連合」です。しかし、フランスの左派は、その存在を軽視できないことを何度も示してきました。ついこの夏、新人民戦線(NFP)連合は予想に反して、議会選挙で第1位となりました。

その成功、そして NFP の急進的な政策を決定づけたのは、急進的な左派勢力「フランス・アンソミーズ」でした。その大統領候補、ジャン＝リュック・メランションは、過去 2 回の選挙で最も人気のある左派候補であり、他のヨーロッパの急進的な左派勢力よりも、抗議運動や制度においてより持続的な存在感を確立しています。

インタビューで、フランス・アンソミーズのクレマン・ゲテ議員とラ・ボエティ研究所のアントワヌ・サレス＝パプーは、同運動の戦略、大衆動員に基づく基盤、第五共和政の制度改革の可能性について説明した。このインタビューはもともとイタリア語で、[Teiko](#)に掲載されたものです。



●**テイコ** まず歴史的文脈から始めましょう。貴運動の発展を時系列で捉えるためです。フランス・アンソミーズ誕生の社会的・政治的背景は？運動創出の主要な原動力と、それらが組織構造・イデオロギーに与えた影響は？

●**クレマン・ゲテ** フランス・アンソミーズは 2016 年 2 月、ジャン＝リュック・メランション大統領候補の支援を目的に創設されました。当時は具体的な形態は定まっていませんでした。フランス国内、欧州、そして世界的な文脈を考察することで、この構想が成功した理由を後知恵で理解

できます:それは複数の社会・政治闘争のサイクルが交差する地点で生まれ、当時の行き詰まりを突破し、断絶の理念を前進させる手段として登場したのです。

これらのサイクルとは何か？ 第一に、新自由主義的改革に対するフランスの社会運動は長い連鎖を成してきました。1995 年冬のアラン・ジュペの福祉削減計画に対する大規模ストライキから始めることで簡略化できます。社会党、共産党、緑の党による「多元的左派」政権(1998 年から 2002 年)は、一部の民営化やその他の新自由主義的改革をもたらしたとはいえ、欧州社会民主主義において特筆すべきものでした。第一に、これは社会党が中道ではなく左派へと舵を切った連合でした。第二に、労働者運動は労働時間の短縮を勝ち取り、当時ヨーロッパでは類を見ない成果となりました。

▼フランスの運動の長期にわたる動員サイクルは、ヨーロッパおよび西洋において特異な経験であり、新自由主義に対する広範かつ闘争的な抵抗と批判であった

2000 年代には、新自由主義改革に対する印象的な動員が幾度も起こりました。ストライキ、大学占拠、大規模な街頭抗議などです。2003 年には、フランソワ・フィヨンの年金改革に反対する全国教育ストライキが発生。2006 年には「初職契約」法案への反対運動が起き、最終的にドミニク・ヴィルパンによって撤回されました。2010 年には、ニコラ・サルコジの年金改革に対し、闘争のピーク時には労働者と学生 350 万人が反対しました(労働組合の推計)。大学財政の自律化や国立教育改革などに対する最大規模の動員についてはまだ触れていました。こうした社会運動の多くは敗北したものの、1995 年、2006 年、2008 年など、勝利も十分にありました。

つまり、フランスの長期にわたる動員サイクルは、欧州や西洋において類を見ない経験だったと言えます。新自由主義に対する広範かつ闘争的な抵抗と批判です。これが、新自由主義のヘゲモニーがフランスで弱かった理由の一端でもあります。大衆階級の広範な層が、新自由主義の教義を消極的に受け入れることさえ決してせず、常に批判的だったという意味で。

しかし同時に、1990 年代から 2000 年代全体を通じて、この社会的対抗の政治的表現は決して結集しませんでした。社会党左派の諸勢力は欧州基準では異例の支持率を維持しました(2002 年選挙ではトロツキスト候補 2 名が合わせて 10%の得票を獲得)が、社会的抵抗を政治的抵抗へと転換させる統合力は存在しませんでした。

我々の成功を理解する上で把握すべき第二の重要なサイクルは、特に政治的なものです。たとえば社会運動との関係でしか分析できなくとも。ここでの出発点は、2005 年の欧州憲法国民投

票です。この出来事は、右派・左派双方における巨大な社会政治的ブロックの崩壊を引き起こし加速させる役割を果たしました。

1980年代以降、これら二つのブロックは内部の矛盾を管理してきました——一方ではフランスの新自由主義的資本主義改革に敵対する矛盾、他方ではそれを支持する矛盾です。2005年の国民投票運動中、これらのブロックは分裂し、各陣営の親EU派グループが共同で運動を展開する姿が見られました。

この瞬間を象徴する最も印象的な画像は雑誌『パリ・マッチ』に掲載されたもので、後の大統領となるニコラ・サルコジとフランソワ・オランドが並んで「賛成」投票を呼びかけていました。この二人は後に二重の再編の担い手となる——フランスの中道右派は新保守主義へ、中道左派はビル・クリントンとトニー・ブレアの「第三の道」へと向かいました。これらの勢力はフランス特有の性格を失ったのです。新自由主義がフランスで強固な基盤を持っていなかったことを忘れてはなりません。主要政党がプロト・ブルジョワ的ブロックへと再編されたことが大きな変化を生みました。

社会ブロックは孤立し、かつての代表者たちへの怒りを抱えました。他のブロックは奇妙な同盟関係に置かれました。これら全てが2017年[大統領選]キャンペーンにおける政治状況の完全な崩壊を招きました。これは政治風景を再編成する新たな提案が熟した時期であることを示していました。後から見れば、当時「ポピュリストの時代」と評された所以です。古い政治的帰属意識が崩壊した瞬間でした。新たな政治主体の出現を有利にする流動的な時期だったのです。

▼大衆階級の大部分は、新自由主義の教義を受動的に受け入れることさえ決してせず、常に批判的であった。

最後に、フランス・アンソミーズの創設は、[オランド政権の]労働法改正に対する社会運動の始まりとほぼ同時期である。つまり、オランド当選から4年後の社会運動の復活です。これは1995年に始まった前述のサイクルが、一時停止を経て再始動したと見なせます。これはフランスにおける新世代の、新自由主義的ヘゲモニーに対する世界的な運動への遅れた参加と見なせます。

2016年の運動を振り返れば、2008年危機後の他の社会運動——特に南欧や北米における——の影響が明らかです。公共空間を占拠する手法はこの観点から明白でした。いわゆる「ニュー・ドゥブ（夜通し座り込み）」運動[2016年]では、新自由主義批判がより急進的な方向へ転じ、民主主義への懸念が浸透し、フェミニズムや反人種差別問題も顕在化しました。フランス・アンソミーズ

の政治的提案が 2016-17 年に飛躍できたのは、こうした歴史的サイクルを継続し、その大義を前進させるのに適した手段であったからでもあります。

フランス・アンソミーズは、旧来の左派政治的識別子から離れた新たな象徴的言語を発明し、旧政治ブロックの危機によって生じた空白を埋めるべく設計されたポピュリスト的言説戦略を展開しました。結局のところ、フランス・アンソミーズのプログラムとその主題・要求は、新自由主義的ヘゲモニーの危機の始まり—フランスではこれを 2016 年に遡ることができる—および労働法改正反対運動と整合性を保っていたのです。

●**ティコ** 創設以来、フランス・アンソミーズは急速に発展し、2022 年の NUPES (新生態社会人民連合) 連合、2024 年の NFP (新人民戦線) を通じて、フランス左派のヘゲモニック勢力となった。現在の運動の構造は？

●**クレマン・ゲテ** まず言えるのは、フランス・アンソミーズは常に進行中のプロジェクトであり、絶えず進化しているということです。2016 年から存在する基本構造は「行動グループ」です。これらの行動グループの運営ルールは、組織化に十分な柔軟性を認め、時間とともに発展する様々な強度を持つプロジェクトと組み合わせ、社会・政治サイクルの変化に対応できるように設計されています。

誰でも行動グループを創設したり参加したりできます。会費の支払いも、正式な会員資格も不要です。ソーシャルネットワーク「ポピュラー・アクション」に参加するだけで十分であり、これにより誰もが近隣の行動グループを探したり立ち上げたりできます。行動グループは地域独占権を持たないため、同じ町や地区、さらには同じ通りで既にグループが存在していても、誰でも新たなグループを創設できるのです！こうした仕組みの核心は、政治的行動への物質的・象徴的障壁を可能な限り除去することにあります。

私たちは、個人の信念から偶発的な行動参加、社会運動への共感、活動家としての自覚、そして行動グループへの帰属に至る連続性を確立するため、広範な社会と密接に絡み合った浸透性のある構造を志向します。もう一つの目標は、可能な限り多くのグループを生み出し、社会をミクロ的レベルで浸透させることです。このような分子レベルの拡散を達成する最善の方法は、上から想像した詳細な計画を策定し、それを全域に押し付けようとするのではないと私たちは考えます。行動グループを創設する完全な自由は、その構造を実際に存在する社会構造（友人グループ、近隣住民グループ、同じ学校に通う子どもの保護者、地域コミュニティなど）の形に適合させます。

これは単に地図を区域に分割するよりも効果的です。もちろん、この結果として活動が活発でないグループも存在します。これは意図的なもので、参加先を探す際に問題を生む可能性はあるが、だからこそグループ認証プロセスを追加しました。認証グループとは、過去2ヶ月以内に「人民行動」で少なくとも2つの活動を登録し、男女平等な共同ファシリテーターペアを擁するグループを指します。これにより実際に活動している行動グループを把握できます。

しかし活動グループはフランス・アンソミーズの一側面に過ぎません。この運動は多様な形態を取り、一種の連合制を実践しています。内部には異なる「空間」が存在し、各空間は独自の論理に基づき半自律的に機能します。活動グループのための空間がある一方、また、プログラム空間も存在し、そこでは全てのプログラム策定作業が集約されます。特に、各分野の専門知識を持つ活動家から成る約50のテーマ別グループが設置されています。

これらのグループはプログラムのテーマ別小冊子を執筆し、プログラム更新の各段階に携わり、団体や集団との連携を維持するための会合を開催するなどしています。さらに「社会闘争」と呼ばれる空間も存在し、これは闘争のための場です。この空間は、労働組合、環境保護、反人種差別、都市の自主組織化活動家らで構成されます。フランス・アンソミーズと同様に、これらの活動家は運動と社会闘争の世界との連携を維持し、その要求などを持ち込みます。学者が運動のために働くことを選択するボエティ研究所もまた、一つの空間と見なされます。これらの例から、各空間が特定の論理、特定の活動主義の形態に対応していることがわかるでしょう。

フランス・アンソミーズの活動は単一形態ではありません。だからこそ、運動の明確な指導的空間を形成する際、我々はこの連合体構造を反映させたかったのです。こうして「空間の全国調整会議」が生まれました。これはフランス・アンソミーズが認める各空間が代表を送り、週1回集まり、運動が立場を表明すべき短期目標を議論する機関です。より長期的な課題については、年2回開催される代表者会議が対応する。この会議には、抽選で選ばれた各県(département)の代表者と、各活動領域から選出された代表者が参加します。この機関は、例えば今後の選挙に向けた戦略的方針を決定します。

以上が「不服従のフランス」の基本的な運営概要です。県レベル組織など複雑化する要素も存在します。これは運動の内部結束を強化する新たな試みですが、本質的な柔軟性と流動性は維持されています。これらの組織は県レベルで調整を行い、特定の役割(資材管理、イベント警備など)を割り当て、流動的な運動に骨格構造を形成します。これに加え、選挙戦準備に必要な議論に関連する一時的な構造が存在します。現在、フランス・アンソミーズは各自治体レベルで迫る地方選挙に向けた戦略とプログラムを準備中です。

●**テイコ** 指導者と指導層によって体现される「垂直的」な政治的意思決定と、ソーシャルネットワーク「人民行動」上で組織される数々の集会や行動グループによる「水平的」で民主的な構造を、どう理解すればよいのでしょうか？

●**クレマン・ゲテ** これは異なる時間軸の管理に関する問題です。政治においては、決断の瞬間と政治的立場・戦略・戦術を採択する瞬間は分離されていません。現実には両者を区別することは不可能です。下すべき決断は状況に応じて生じるものです。事前に構築された理論を純粹かつ完璧に適用できる具体的な状況など存在しません。そして当然ながら、優れた理論的枠組みは具体的な状況と共に進化するのです。

▼**単独で決断する指導者のイメージは単純化されすぎているとはいえ、フランス・アンソミーズには迅速な意思決定を目的とした緊密な指導部機構が存在するのは事実である**

社会全体のリズムは過去に比べて加速しています。これはありふれた観察に思えるかもしれませんが、現代の根本的な現実です：人口爆発と情報伝達の速度、さらには利益サイクル自体の加速に起因します。したがって、時代に対応するためには 1960 年代よりも迅速な意思決定が求められます。あなたが言及した単独で決断する指導者のイメージは単純化されすぎているとはいえ、フランス・アンソミーズには迅速な意思決定を可能にし、行動の遅れを防ぐために緊密に連携した指導部機構が存在するのは事実です。

2017 年から 2022 年までは、当時わずか 17 名の議員で構成された議会グループがこの機能を果たしました。72 名の議員を獲得した（2022 年選挙）後は、全国調整機関がこの役割を担っている。彼らはグループチャットで常時連絡を取り合い、現代政治の要請に応える十分な対応力を維持している。しかしこれは物語の一部に過ぎません。

私たちの構造は、運動内部で基盤と指導部の間に埋めがたい隔たりを生み出しているように見えるかもしれませんが、しかしそれは、私たちのより広範な意思決定プロセスを見落としている場合にのみ言えることです。まず第一に、形式的・制度的には、定期的な間隔で長期的な意思決定を行う仕組みが存在します。前述したように—代表者会議は、指導部から提出される文書と行動グループを中心に、ほぼ古典的な方法で構成されており、会議が総合的な結論を生み出します。

次に、私たちの制度的・非公式な文化を結びつけるものがあります。それは綱領『共通の未来』です。この綱領が策定される過程、その継続的な更新、そしてフランス・アンソミーズの言説において当初から持っていた重要性—さらに現在フランス左派全体の議論で中心的な位置を占め

ていること—を通じて、この文書は単なる選挙運動の道具を超えた存在となっています。これは共通の参照点であり、フランス・アンソミーズが高度な自主的自由を享受する枠組みです。この枠組みこそが、運動が指導部に柔軟性を与えることを可能にしているのです。

プログラムを超えて、反応性の高い指導部が…毎日、フランス・アンソミーズからの密度の高い情報交換の場として機能しているという事実がある。基盤、選出された代表者、指導部の間で毎時間膨大な情報が流通しているのだ。メッセージは直接、入力して「送信」を押す時間しかかからずに伝達される。組織の構造—政治的であれ社会的であれ—を論じるには、その組織が利用可能な情報通信技術を考慮に入れなければならない。

中央機構と草の根組織、中間層とのコミュニケーションは、電信や 50 世帯に 1 台の電話、あるいは即時かつ無制限の議論を可能にするグループチャットでは全く異なります。20 世紀の大衆政党が各レベルで定期的な集会を開くピラミッド型構造は、通信の具体的な制約によって大きく正当化されていました！ しかしこれらは技術的に時代遅れです。

●**テイコ** フランス・アンソミーズは、2000 年代から 2010 年代にかけての他の左翼政治実験とどのように差別化を図っているのでしょうか？ スペインのポデモス、ギリシャのシリザ、メキシコのモレナから、どのような教訓を学ぶことができるのでしょうか？ フランス・アンソミーズは、同盟関係や「社会的ヨーロッパ」と反グローバル化のプロジェクトに関する条件について、設立以来どのように進化してきたのでしょうか？

●**クレマン・ゲテ** 一般的に言えば、フランス・アンソミーズは、ポデモス、ポルトガルのブロコ、ギリシャのシリザ、そして英国のジェレミー・コービンや米国のバーニー・サンダースの背後にある運動と同じ歴史的背景から生まれました。まず、アレクシス・ツィプラスが降伏した時点で、シリザはこのグループから完全に脱退したと私たちは考えています。しかし、その出来事は私たちに考えさせる材料となりました。それは、急進的な左翼が権力を獲得した場合に、私たちが直面するであろう紛争のレベルを私たちに示してくれました。

それが、私たちが直面しなければならない主な問題です。欧州連合の機関、特に欧州中央銀行のように、民衆の主権から最もかけ離れた機関は、左翼の試みを打ち砕くための支配階級の手段として重要な役割を果たしています。ここで私たちが学んだ教訓は、断絶への取り組みを一層強化することです。支配階級との迅速な妥協が可能だという幻想を助長してはならないのです。それは不可能であり、まさにそのために我々は EU との綱引きを推し進めるためのプログラムの手段を事前に準備しなければなりません。

▼欧州連合(EU)の機関—特に欧州中央銀行のように人民主権から最も隔絶された機関—は、支配階級が左翼の実験を粉碎するための道具として重要な役割を果たしている

だからこそ我々は、NUPES(国民連合・平等・社会党)とNFP(国民解放党)の共同綱領を起草する際、欧州問題に厳格な姿勢を示した。結局のところ、我々は先を見据え、確実に襲来する攻撃への対抗策を準備しなければなりません。

特に欧州において我々が構築する国際主義の形態についてより直接的に応答するならば:我々は今日、特異な立場にある。欧州において我々は、選挙的成功と基盤の強さの両面で最も先進的な位置を占める勢力です。これは我々に主導権を握りネットワークを構築する責任を課します我々はこの問題を極めて真剣に受け止めています。指導部は広く移動し、欧州全域はもちろん、南北アメリカやアフリカでも諸勢力と会合を重ねています。我々は、急進的左派の霸権的勢力が欧州規模あるいはそれ以上に台頭するという構想ではなく、同志間の相互扶助・調整・議論による新たな国際ネットワークの再構築を信じます。

●テイコ あなたはしばしば、フランス・アンソミーズは伝統的な政党ではなく「運動」であると主張します—あるいはせいぜい、闘争・協力・動員における戦術の多様性を包み込み、支え、強化するための「傘下政党」だと。この運動自体が、そうした力学の影響を受けています。

ここで問題となるのは、内部と外部、つまり政治的・選挙的プラットフォームとしてのフランス・アンソミーズと社会運動との関係性です。この組織構想と、過去10年間のフランス・アンソミーズとフランス社会運動の関係について、コメントを頂きたい。

●クレマン・ゲテ 運動の内側と外側との関係性は、私たちにとってそれほど二項対立的な問題ではありません。まさに私たちが創造しようとしている組織形態—運動形態—こそが、社会と連続した存在として、社会から膜で隔てられた有機体ではなく、浸透性のあるものとして自らを位置づけているのです。

私たちの運動は、他の社会運動に参加し、その構成要素として、またそれらから養分を得て生きているのです。全国で集う行動グループの増加であれ、人民行動プラットフォームの利用増加を示すデータであれ、近年の社会運動の歴史を明確に辿ることができます。例えば2023年の年金改革反対運動や2024年のパレスチナ支援運動といった激しい動員期は、運動が拡大し充実した瞬間でした。活動の激化、参加者の増加を私たちは確認できます。衰退期は社会運動の沈静化とも対応するが、社会運動の特性上活動が完全に停止することは決してありません。

我々が闘争との関係をこのように捉えている以上、自ら主導権を握る自由を感じるのは容易に理解できるでしょう。

誰もが認めるように、我々は左派政党の伝統的な路線「労働組合の後ろ盾となるのみ」に従いません。我々は政治的風景における重要な位置づけを踏まえ、社会運動のための独自の戦略を推進し、自らの条件で行動を呼びかける正当性を持ちます。これは労働組合や集団、協会、社会闘争の自律的組織に取って代わろうという意味ではありません。我々の活動はそれらとの関係において特異な機能を果たす—社会運動と選挙政治、闘争と制度的変革を結びつけることにあります。我々の運動は、闘争が国家と制度に入り込み、それらを変革するために存在します。

●**ティコ** 2018年から2023年にかけては、COVID危機だけでなく、ジレ・ジョーヌ蜂起、世界的な反乱、マクロン年金改革への抗議運動、そして複数の反人種差別暴動(2020年の米国から2023年のフランスまで)が起きました。これらの年は明らかに根本的な転換点を示しました。こうした闘争は「不服従のフランス」の政治路線と戦略をどのように再定義したのですか？

●**クレマン・ゲテ** 私たちはこの時期を、フランス国民が市民革命のプロセスに突入した瞬間と捉えています。ジレ・ジョーヌ運動は断絶を刻みました。当初は燃料税への抗議運動だったが、その問題を通じて実質的には税制の公平性と都市部の不平等が焦点となりました。しかし数週間で運動の要求は変容しました。一方で、税制全般の見直し、賃金、年金、大衆的エコロジ—など、様々な領域に要求が広がる感覚がありました。他方で、権力の問題が解任を求める武装の呼びかけとして提起されました:「マクロンは去れ」—共和国大統領の辞任を求めることがフランスにおいて決して軽々しい要求ではないことを改めて指摘しておきましょう。そして民主主義的要求がジレ・ジョーヌ運動の中心となりました:国民発議による国民投票、選出された公職者の解職請求権、憲法制定議会など。

ジレ・ジョーヌの瞬間はおそらく過ぎ去ったが、解体的な瞬間は終わっていません。それ以来、この国で起こるあらゆる深刻な動乱において、それは急速に再出現してきました。社会運動は、特定の目標に長く焦点を当て続けることはできません。そこには、物事が真に変わるためにはすべてが変わらねばならないという感覚、いやむしろ意識が感じられます。そして権力の問題と、その組織への拒絶は、この精神のもとで提起されるのです。

▼**私たちの運動は、闘争が国家と制度に入り込み、それらを変革するために存在する**

例えば、政府が強制的に改革を可決する決定(第49条第3項[すなわち投票なしでの法案可決])から始まった年金改革反対運動でも、再び同じことが起きました。

我々は市民革命の長いサイクルの中にあり、これを明確に区切られた蜂起的事件ではなく、一つの段階として捉えています。したがって我々の戦略は二面性を持ちます。第一に、我々の行動と提案によってこの段階が終焉しないよう、あらゆる課題を乗り越え、憲法制定の展望を生き続けさせるよう努めます。これは議会措置によっても達成可能であり、政府が多数派不在を隠蔽する（改革案の採決回避）のを阻止すべく国民議会で全力を尽くした理由もここにあります。

我々は街頭闘争の前進を支援し、それを早期に終結させようとする策略を阻止しました。この種の活動は、我々が提示する制度的提案によっても推進できます。例として、2024年7月の議会選挙結果を認めなかったエマニュエル・マクロン大統領の弾劾を試みた件があります。我々は解任の展望を生き続けさせ、マクロンが民主主義の基本原則を力づくで放棄したからといって戦いが終わったわけではないことを示すために活動しました。

第二に、政治運動としての我々の役割は、選挙戦を市民革命の長期プロセスに統合することにあります。これはプログラムの活動によって実現される。直面する選挙やそのための連合構成にかかわらず、我々は常に断絶の選択肢を提示します。あらゆる選挙において、権力という問題を直接的に提起する—それはいかに現実的に手の届くものか、と問うのです。

●**テイコ** フランス・アンソミーズ、郊外の委員会・協会、そして労働組合の関係性は？ これらは時間とともにどう変化したのですか？ 緊張点と一致点は？ これらの関係の未来をどう見ているのですか？

●**クレマン・ゲテ** まず、フランス・アンソミーズが登場する前のフランス左派の関係性を明確に見極める必要があります。フランス労働総同盟（CGT）とフランス共産党の結びつきは、同党の選挙結果の低迷とともに弱まりました。緑の党と環境運動の結びつきも、運動の変遷と社会民主主義政権の経験から生まれた不信感により同様に弱まりました。最後に、庶民の居住地域で形成された共同体は、実際には無視され軽蔑されていました。

フランス・アンソミーズは過去の幻想ではなく、現代のフランス社会を直視することを選びました。誰もが参加できる組織形態と運営方式を確立しました。21世紀において、前世紀の男性プロレタリアートのような生活リズムに根ざした、絶対的かつ恒久的な党規律を要求する大衆運動を創設することは不可能です。

したがってフランス・アンソミーズは、フランス社会全体と浸透し合う運動体です。運動外での活動可能性—組合・集団・アソシエーションなど—を全構成員に認め組織化します。活動家の大半は、選挙運動の合間や並行して他の主要な活動に従事する傾向があります。

この組織形態は「民衆の時代」理論と「市民革命」思想に由来します。都市部におけるネットワークアクセスを巡る新たな社会闘争の場を特定します。様々な形で日々こうした闘いに取り組む人々への特別な配慮を要求します。

この事実ゆえに、フランス・アンソミーズのプログラムは広範な社会的要請に大きく駆動されています。庶民的な地区の集団、フェミニスト運動、気候変動と闘う若者、フランス海外領土での動員—それらの要求は我々の要求でもある。人間と自然の調和を目指すプログラムに明文化されています。

▼フランス・アンソミーズは、過去の夢想ではなく、今日のフランス社会を直視することを選んだ

このプログラムの対話は、個人であれ集団であれ、社会闘争の主体たちとの新たな関係を構築することを我々に義務づけます。社会民主主義の失敗によって引き起こされた政治不信を乗り越えるため、我々は日々、より多くの人々を巻き込む努力を続けています。庶民の住む地域では、旧来の左派の慣行とは対照的に、絶え間ない戸別訪問によってこれを実践しています。これは、庶民の住む地域で年次集会を開催するにせよ、選挙で候補者を擁立するにせよ、住民に正当な地位を与えることを意味します。ここでは、共に働くことを志願する人々の数が増えるにつれ、少しずつ前進しています。

旧来の左派が、党派を超えた庶民の結束というこの戦略を我々と共に推進することに消極的である点は注目に値します。NUPES（国民連合）とNFP（国民連合）の両方において、私たちはこの組織化枠組みを—特定の政党の党员であるか否かを問わず—すべての人々に開放し、労働組合やアソシエーションも包含するよう強く戦いました。しかしこれは実現しませんでした。旧来の左派は選挙取引しか見ず、最初の機会ですらのプログラムや公約を破棄するからです。彼らは期待に応えられなかったが、これは今後の選挙でこの戦略を追求する私たちの歩みを止めることはありません。

●**テイコ** 2023年初頭、あなたはフランス・アンソミーズの文化財団であるボエティ研究所を立ち上げ、私たちの何人かが積極的に協力しています。ボエティ研究所は会議の開催や研究発表だけでなく、大衆教育や活動家育成においても重要な役割を果たしています。政党運動としてのフランス・アンソミーズにおいて、この研究所はどのような位置づけにあるのでしょうか？

●**クレマン・ゲテ** ボエティ研究所は、2022年選挙後の運動の進化に関する考察から発展しました。私たちはいくつかの重要な目標を達成していました：二回の大統領選挙で確認された

社会民主主義の追い越し、議会グループを最大左派勢力へと成長させたこと、そして急進派主導の左翼戦線の経験です。

ここで新たな段階へ:恒常的な選挙運動という幼児期を完全に脱却した時期です。成長のため、我々は新たな機関を構築しました。これにより、主に選挙運動時に参加した様々な分野の知的活動家を動員し、彼らの能力を闘争に活用できるようになったのです。

ボエティ研究所はまず、選挙運動を通じて参加した多くの学者に恒常的な任務を与えるための組織です。その任務には、当然ながら活動家向けの優れた論拠の構築が含まれます。支配的イデオロギーに対する知的闘争、すなわちそれに反論する研究・科学的調査の生産もまた任務です。例えば当研究所の経済学者たちは、フランスにおけるインフレと利潤の循環構造を解明する多大な研究を遂行しました。そしてもちろん、大衆教育とは批判的探究のための共通基盤を段階的に構築するものと理解されています。

ボエティ研究所はまた、主要な戦略的議論を扱う場ともなりました。極右との闘い、生態学的闘争の戦略、第四ブロックの選挙戦略などについて議論する空間です。研究所の利点は、こうした議論を「不服従のフランス」内部の役職争いから切り離せることです。それにより、議論は社会科学の観点に立脚します。私たちが共同執筆した書籍『[極右の抵抗可能な台頭](#)』は、本書に携わった研究者とフランス・アンソミーズの指導者・活動家たちによる全国規模の対話会(ほぼ 100 回に及ぶ)の契機となりました。もちろん、ジャン=リュック・メランションとの大規模な記録付き討論会も含まれます。

▼旧来の左派は選挙取引しか見ず、最初の機会ですら自らのプログラムや公約を破棄する

しかし我々の考えは、知識人と運動の関係が一方通行であってはならず、運動側が一方的に受け取るだけではないという点にありました。むしろ研究所が提供する接点は、知識人を闘争や活動主義の世界と恒常的に接触させることで、彼ら自身を変容させる可能性を秘めています。この場が参加者に影響を与える出会いを生むことを心から願っています。最後に、ボエティ研究所は幹部養成プログラムでもあります。大学教授とフランス・アンソミーズ活動家との接触が最も実質的な場です。

この研修プログラムは、2022 年以降のフランス・アンソミーズ運動の複数の目標に対応しています。第一に、先に述べた運動の部分的な固化のための手段です。現在の段階では、一種の政治的コマンド作戦だった頃よりも多くの幹部が求められます。何よりも重要なのは、これらの幹部層を社会的にもリクルートすることです。彼らは運動の仲介者であり、地域における運動の顔

となります。我々が期待する大衆階級の動員は、大衆階級の多様性を真に代表する存在を提供しなければ達成できません。

●テイコ 国家機構のファシズム化プロセスの加速と、複数の国における極右の台頭は、今日の重大な課題です。これに直面して、フランス・アンソミーズの戦略的展望は何か？ 例えば、反ファシズム、自治体主義、二重権力といった概念を、どのように理解しているのですか？

●クレマン・ゲテ 我々は、国家を掌握することが極めて重要だと考えています。市民的不服従運動、生態学的抵抗、巨大で無益なプロジェクトへの闘争—これらは支配的秩序のヘゲモニーを問い直し、信頼できる代替案を提示する上で不可欠だが、それらの行動だけでは不十分です。直接行動と不服従は開発を阻止し国家に圧力をかける力を持つが、自律的な領域だけでは全ての共有財を真に守るには至りません。資本主義に終止符を打つには：生産装置を変革できるのは誰か？ 孤立したイニシアチブか、計画する国家か？ 我々は時間の問題に直面しています。生態学的危機の現実には、深い変革だけでなく迅速な変革を要求します。

国家を掌握することが決定的に重要であり、それは投票箱を通じて、選挙によって行われねばなりません。なぜか？ 革命的武装行動は 21 世紀のフランス社会に適合しないからです。我々は唯物論者です。数十年にわたり、武装蜂起やゲリラ戦は同志の死を招くだけでした。選挙での勝利という目標には、革命的人民の構築が不可欠です。これは数学的に必然です。勝利には投票の 50% プラス 1 票が必要です。何よりも、人々を結束させるプログラムのもとに棄権層を動員することが必要です。

権力を行使するには革命的人民が必要です。すでに我々に対抗して結集しているのは、金権勢力、資本主義、そして強大で組織化された多国籍企業です。我々が実現しようとする生態学的分岐には、国家計画と急進的な規制、つまり強固な権力によって金権勢力を粉砕することが求められます。これは資本主義との真の衝突を必然とし、それは人民の支持なしには成し得ません。

「不服従のフランス」政権には広義の民主主義が不可欠です。[社会党のミッテラン大統領が 1981 年から 1995 年まで大統領を務めていた期間]、特に 1981 年に犯された誤りは、企業の経営に疑問を呈することなく国有化が行われたことです。我々が擁護する集団化とは異なります。社会党は民衆動員を呼びかけず、結果的に挫折しました。我々が構築する生態学的計画は民主的でなければならず、市民に依拠し、システム全体の再構築を求める民衆の願望を汲み取るものなのです。

二重権力という概念以上に、フランス・アンソミーズの目標は国家を掌握し、継続的な民衆介入と可能な限り広範な人々の国家掌握(特に憲法制定議会の設置)を通じて国家を変革することです。しかしこれは、自律的な地域や実験、国家外の民衆動員との弁証法的関係を排除してはなりません。我々の革命的戦略は、国家の民主化と、国家外の強力な社会運動(新たな生活形態の実験を含む)による社会の活性化とを包含し、相互に絡み合うプロセスなのです。

▼国家掌握が極めて重要であると我々は考える。市民的不服従運動を支持しつつも、その行動だけでは不十分である

今後の地方選挙を見据え、我々は「不服従のフランス」的自治体主義の構想を提唱しています。我々にとってコミューン[地方自治権]は、何よりも政治的課題である「市民革命」の重要な手段です。もちろん、これは単独の町や都市では実現できません。多数の自治体選挙を一気に制しても達成できません。自治体の制度的役割、財政資源、生産水準がそれを許さないからです。しかし地方レベルでは、恒常的な民衆介入の文化を形成し、全国レベルで市民革命を構築するために必要な実践、習慣、選出された公職者との新たな関係を築くことができます。

この意味で、地方自治体は人民主権を深める場となります。

市民革命の中心的な課題の一つは、現在の生産、消費、交換の様式を打破し、人間同士、そして自然と調和させることです。生態学的計画こそがこれを実現する具体的手段です。そしてその制度と基盤構造は地方レベルに存在します。真の二ーズの繊細な管理と投資の緩やかな浸透は、このレベルでこそ対応可能なのです。

上流から下流まで、市場が決して成し得ないことを実現するのは地域民主主義の責務です。この理想に捧げる自治体こそが、公共機関や地域公営企業の設置を開始し、生物圏評価を実施し、公共意思決定のあらゆるレベルで生態学的計画が必要とするノウハウを蓄積する役割を担います。

この枠組みの中で、我々は政治・メディア領域における極右の台頭に直面しています。対峙するのは単なる政党ではなく、ブルジョア的利益保護の意志を共有する諸勢力が融合したイデオロギー的運動です。これには公然たる反ファシズム的対応が求められます。[今年初頭]の反人種差別・極右反対デモの予想外の成功は、我々の運動の成果に大きく依存しており、フランスにおけるファシスト排除への民衆の渴望を示しています。これは 2024 年 7 月の新人民戦線(Nouveau Front Populaire)の選挙勝利の主要因でもありました。

我々はファシズムとの決戦を予測します。「結局は我々と彼らの対決となる」とジャン＝リュック・メランションが十数年にわたり述べてきた通りです。この戦いは、我々が忍耐強く構築してきた手段の強化を要求します。フランス・アンソミーズのメディア、ソーシャルメディア上での内部・対外コミュニケーション、治安部門、組織的規律。この戦いはまた、思想的・綱領的領域において寸土も譲らないことを要求します。ブルジョアジーとの厳しい対峙が、この戦いの準備となります。その対峙はますます激化していますが、我々は決して退きません。



クレマンس・ゲッテは「反逆のフランス-新人民戦線」所属のフランス国民議会議員。

テイコはユーロノマドセミナーに関連するイタリア語のジャーナルである。

ジョン・スミスはアメリカの共産主義者であり、ラ・フランス・アンソミーズの活動家である。